

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（保健学）	氏名	NICE MAYLANI ASRIL
学位授与の条件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論文題目			
<p>Diabetes knowledge, health beliefs, and health behaviour among type 2 diabetes patients in rural area Indonesia - Qualitative and quantitative studies (インドネシアの農村地域における 2 型糖尿病患者の糖尿病知識、健康信念、および保健行動一定性的および定量的研究)</p>			
論文審査担当者			
主査	教授	森山 美知子	印
審査委員	教授	濱田 泰伸	
審査委員	教授	田邊 和照	
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>2 型糖尿病はインドネシアにおいて増加の一途にあり，2017 年の有病率は成人人口の約 6.7%と推計され，患者数においても世界の 10 位以内に入る。その一方で，適切な治療を受けている者は少ないとの報告もあり，特に，インドネシア農村地域での糖尿病患者の保健行動に関する研究はほとんど実施されていない。2 型糖尿病は遺伝因子や加齢に，過食や運動不足，ストレスといった生活習慣や心理・環境要因などが加わって発症するが，患者が糖尿病に適切に対処できるかどうかには，病気に対する知識や社会文化的要因などの因子の関与が指摘されている。適切な療養行動については，病気の罹患性や重大性の認識に基づく脅威認知から，有益性と障壁を勘案して適切な保健行動がとれるかどうかを説明するモデルとして「健康信念モデル」が広く知られている。著者は，この健康信念モデルを基盤に，本研究に即した改変を加えたモデルを理論枠組みに，インドネシア農村地域の 2 型糖尿病患者の調査研究を行った。本研究は，(1)健康信念モデルに知識と自己効力感を加えた枠組みを用いて，インドネシア農村地域の 2 型糖尿病患者の糖尿病の知識，健康に対する信念及び保健行動に関する調査を行った定性的研究と，(2)インドネシア農村地域の 2 型糖尿病患者の保健行動と関連する要因を質問紙により調査分析する定量的研究から構成されている。</p> <p>定性的研究では，2016 年にバリ島農村地域に在住する 20 歳以上の 2 型糖尿病と診断された参加者 20 人（33～58 歳，平均年齢 49.9 歳）に，フォーカス・グループ・ディスカッション法を用いて調査を行った。その結果，「乏しい糖尿病の知識」，「糖尿病は生活・人生の負担」，「自己効力感の阻害」の 3 つの主題が生成された。また，調査結果から，学歴や民族性が知識及び認識に影響を与える人口学的要因であること，知識不足は個人の信念や健康的な生活習慣の重要な予測因子であることが示された。糖尿病は重荷であるという農村地域の伝統的・土着の見方や，適切な健康行</p>			

動を実行しようとする自発的意欲の不足により、患者の適切な健康信念の形成が阻害されていると考えられた。インドネシア農村地域の糖尿病患者の保健行動を理解するためには、健康信念モデルの中に伝統的な土着信仰や自己効力感を位置づけて考慮すべきであることが示された。

次に量的研究では、インドネシア農村地域における 2 型糖尿病患者の保健行動への影響因子を明らかにするため、人口統計学的変数（性・年齢・婚姻の状況・学歴・雇用状態のほか、宗教や伝統的信仰）、臨床的及び生活様式の要因（BMI・病状・喫煙・飲酒）、知識並びに健康信念モデルにコントロールの所在と社会的支援を加えた拡張健康信念モデル因子について、質問紙調査を行った。対象者は、バリ州農村地域の地域保健センターに通院する患者から便宜的方法を用いて抽出し、203 人から回答を得た。各変数について記述統計分析を行った後、良好な保健行動（健康的な生活習慣の合計スコア）を従属変数とした段階的回帰分析を行った。独立変数は上記の 4 つの要因カテゴリーから、カテゴリーごとにこの順序で投入した。4 カテゴリーの変数で健康的な生活習慣行動の変動の 71.8%が説明可能であった。良好な保健行動に関して有意水準 5%未満で統計的に有意であった変数は、年齢、教育レベル、雇用状態、伝統的信仰、飲酒、糖尿病薬の服用、症状の期間、病気の重大性・罹患性、障壁の認識、家族の支援、社会関係資本のつながり及びコントロールの所在であった。

2 つの研究結果から、2 型糖尿病患者の保健行動を促進するための施策では、2 型糖尿病患者に適切な知識提供を行うとともに、拡張健康信念モデルに基づいて家族による支援や社会関係資本による人間的つながりを強める支援の重要性が示唆された。糖尿病の患者教育や疾病管理において、拡張健康信念モデルの有用性が示された。

以上の結果から、本論文はインドネシアの農村地域における糖尿病患者の適切な保健行動の普及に大きく貢献する研究として高く評価される。よって審査委員会委員全員は、本論文が著者に博士（保健学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。